

—寝室、寝具の実態および寝台利用
についての志向調査—新潟県立新潟女短大 ○多田 千代
新潟県生活改 清水 信子

1. 新潟県は裏日本の積雪地帯にあるので相対湿度が年間を通して高い。冬期は特に高湿で、そのため衣類、寝具、畳などの吸湿が多く、合理的に管理しないと不衛生になる。そこで、特に雪国では従来の寝かたを改めて寝台方式の寝かたを採用すべきであることを先に明かにした。しかし既成の寝台をそのまま持ち込むことには疑問がある。今後、本県農村生活に適合するより望ましい寝台を提案する必要があると考えられるので、今回の調査はその基礎資料を得る目的で行った。

2. 調査方法は質問紙法。調査対象は、県内 68 市町村にわたる農村生活者で、2550 世帯 9900 人に対し、該当地区の農業改良普及所を経由して昭和45年2月に調査票を配布した。回収票は年代別、および、最深積雪量と月別最低気温累年平均 0.5°C 以下の月数との相関でわけた地帯別とで集計した。

3. ①寝具が昼間も寝室内に置かれたままになっている家がきわめて多く、最大は 95%、平均で 65%。年代別にみると 60 才以上の高年令層に多くて 80% であった。②すでに寝台を使っている世帯は 10%。③現在は使っていないが将来使いたいというものは 19%。その第1の理由には、20 才台までの若い層は『労力がはぶける』をあげ、30 才以上の中高年令者は『ふとんにかびが生えないから』をあげた。注目してよい事項である。④落ちそうで不安だから使いたくないというのが 30%、無回答者は 51% もあった。